

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	筑波大学	整理番号	R01
プログラム名称	エンパワーメント情報学プログラム		
プログラム責任者	稲垣 敏之	プログラムコーディネーター	岩田 洋夫
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画は全体的に着実に実施されている。本プログラムの「人の機能を補完し、人と共に協調し、人の機能を拡張する情報学」を目指した人間情報学の取組は、採択以来継続的に行われている。 ・人間情報学は研究科の枠組みを超えた分野融合研究であることから、異分野複合研究指導チームによる支援体制が構築され、それに基づく学位論文の質保証の仕組みとして「筑波大学グローバル教育院」に「博士（人間情報学）学位論文審査委員会」を設置し、昨年度は3名の優秀な修了者を輩出し、民間企業に送り出していることは高く評価できる。 ・事業の定着・発展については、全学の大学院教育組織の再編成の実施を決定していること及び支援期間終了後もこのプログラムを改革し、定着させることへの全学的な意気込みは高く評価できる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間学としての情報学は明らかに既存の情報学のサブセットではない。本プログラムの本質的な部分はまさにこの人間学としての情報学をいかに展開していくかである。学生達にとっても開始時点と比較しても、「人間情報学」の捉え方がまだ十分に浸透していないように思われたので、より一層努力していただきたい。 ・施設見学において学生達による様々なデモを見させてもらった。それぞれに興味深い作品であったことはわかったが、工学系の研究科のデモとほとんど変わらない印象を持ったことも事実である。そのため、どの部分に人間学を主張したのか分かりにくかったので、もっと人間学に焦点を当てた作品作成を期待したい。 ・上記と関連することだが、プログラム学生には芸術、看護及び心理、社会人経験者等多様な学生がおり、学位「博士（人間情報学）」として彼等の研究方向を保ちつつ、どのように研究指導を進めていくのか更なる検討をお願いしたい。 ・定員未充足については、対応に鋭意努力していることは把握できたが、まだ満足できる水準ではなく、より一層努力していただきたい。これと同時に、「人間情報学」修了者は今後更に増えるものと思われるが、そのための就職支援に、なお一層、力を入れていただきたい。 ・本学が実践している「人間に目を向けた情報学」は我が国だけでの大学院教育ではなく、日本が世界に発信する新たな学術分野であることから、このプログラムを推進する研究教育機関が国際的なリーディングセンターとなることを強く期待したい。 			